

# 第23回蔵前科学技術セミナー

去る2月20日に岡山県支部で開催しました第23回蔵前科学技術セミナーについてご報告いたします。

日時：2010年2月20日(土曜日) 13時30分～16時

場所：岡山市北区内山下 ルネスホール

講演者：白川英樹博士

(昭和36年東京工業大学理工学部化学工学科卒業、同大学大学院修士課程化学工学専攻、同博士課程化学工学専攻修了、工学博士。筑波大学名誉教授。2000年「導電性ポリマーの発見と開発」でノーベル化学賞受賞、文化勲章受章)

テーマ：中学生へのメッセージ

「自然に学ぶ楽しさ～セレンディビティと発明・発見～」

**講演主旨：**素晴らしい発見や発明は、失敗や偶然の中から生まれることが多いが、それを見出す能力を「セレンディビティ」と言っています。すばらしい発見や発明の種はいつでもどこでも私たちのまわりに漂っているのですが、その種に気が付くためには、あらかじめ準備された知性が必要なのです。知性というと特別なことと思われるかも知れませんが、みなさんが学校で学習するすべての教科を、まんべんなく勉強して理解することで知性が磨かれるのです。自然



講演される白川英樹博士

岡山県支部長 陶山晴彦 (S35 歳)

に親しみ、好奇心を持って、よく観察することも大切です。セレンディビティを発揮するためには知性を磨くことが大切なのです。

講演対象を中学生(及びその父母)として聴講希望者を募り、席に余裕があれば一般の社会人にも聴講していただくことにしたところ、参加者の過半数が中学生とその父母で、席数298のルネスホールが満席になりました。

人口約70万人の岡山市には公立の中学校が40校(生徒数はほぼ1万9千人)ありますが、中学生の参加できる距離を考えますと会場から半径約数km以内では10校ほどになります。後援の岡山市教育委員会からピラを各中学校宛に送ってもらいましたが、その後はピラやPR文、解説資料などを持って中学校を訪問し、教頭先生や理科担当の先生に会ってPRして回りました。

**PRの主旨：**「多感な中学生時代に一流の本物を目の当たりに見た感動は子供にとって一生の財産になることでしょう」

テレビ、インターネット、何でも容易に映像で直ぐ見られるようになった時代です。しかし映像と実際では見たときの感動の大きさが全然違います。それはどれだけの間記憶に焼き付いているかによっても分かります。「本物」の実物に会ったときの感動、感激は一生持ち続けることもあります。特にものごとが分かり始めて感受性の強くなった中学生時代に体験した出来事は、一生忘れないどころか、一生を変えてしまうほどの影響力があります。そして更に、その感動を親子で語り合い共有することができたら、どんなに素晴らしい家庭環境ができることでしょうか。このように考え、私たち東京工業大学の卒業生は超一流の科学者である2000年ノーベル化学賞受賞者の白川英樹博士を岡山市に招いて、中学生のための講演会を開くことになりました。子供にとって重要なパワーは本物

を見た感動と感激から生まれます。子供たちや親御さんには是非お知らせしてください。

聴講希望者には携帯メールか葉書で申し込んでもらい、学校名や職業名を控えて聴講整理券を送りました。初めのうちは少ないことを心配していましたが、講演日が近づくと急激に応募者が増えてきて会場が聴講者で溢れるのではないかと心配されました。その際は蔵前の会員には立ち見をお願いすることにしていたのですが、実際にはキャンセルがあったり、逆に当日申し込みがあったりして、ほぼ満席になりました。

ルネスホールは、岡山市の中心街にあり、以前は日本銀行岡山支店で、その内装を変え多目的のホールにしたものです。外観は古色蒼然としたギリシア風の円柱で、中は黒白のすっきりしたシャネル風のコンセプトの内装になっています。固定席ではないため、椅子を並べたり、ステージを設営したりで、多少使い勝手は悪いのですが、風格だけは流石に超一流(?)です。ホールの催しのないときにはロビーにはBGMでベートーベンのシンフォニーが流れていたりします。ホールの下見と打ち合わせに行ったとき、第三交響曲「英雄」がかかっていた、びっくりしました。

岡山県支部の会員には、白川先生と同じ金丸研究室の先輩(猪狩恭一郎氏、32年)と後輩(田

中次郎氏、45年修)がいますので、白川先生が新幹線で岡山駅に到着されたときに迎えに出られ、講演の前に久しぶりに金丸研の旧交を温める時間を持たれることができました。

当日までは、実行委員は私、陶山と田丸猛氏(45化工)と田中次郎氏の3人でやりましたが、当日は支部幹事ほか有志の手伝いを得、田丸氏が司会をし、社団法人蔵前工業会理事長の庄山氏の開演の挨拶から始まり無事に講演会を進めることができました。

講演後に質問の時間を20分とっていましたが、いろいろ活発な質問も出てきて延長され、40分にもなっていました。

この講演会には中学2年生の孫が友達を6人も誘って来てくれました。後でその友達に「どうだった? どんなことを覚えている?」と感想を聞いたところ、「お話はよくわからなかったけれど、何でも疑問を持ってよく観察し、それを記録し後で調べてよく考えることが大切だということを、初めから終わりまで何度も話されたので覚えている」(メモも取らずにスラスラと言えるところをみると、よく聞いていたということです)。

「今まで名前のついていなかった新しい元素に、コペルニクスにちなんでコペルニシウムという名前がつけられ、コペルニクスの誕生日である昨日、2月19日に発表されたこと」(おっ!

この子はデキルな。すごい)。

「やっている意味や価値が分からなくても、誰もやっていないことだったら、それはやる価値のあることだと言われたこと」(中学生にもなると、人生の面からもよく捉えて聞いています)。

「よく聞くポリエチレンの分子が鎖のような形をしているのが面白かった」(あの形を見て面白いと



ルネスホールを埋め尽くす聴衆

感じるとは、この子は化学の方に進むかもしれないな)。

『セレンディピティって分かった？』『うーん、分からなかった』『そうかもしれないね。難しかったかな。パンフレットの解説という所におじさんが易しくと思って書いておいたから、後で読んでおいてな。結局、一生懸命にやって失敗したことは、決してただの失敗ではないのだから、捨ててしまわないで、できたものやそれまでのことをよく見て調べてごらん。きっとすばらしいことが見つかるかもしれないよ、ということだよ』

この子たちはよくわからないと思っても全身で受け止め

ていました。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず遠路岡山まで講演に来てくださった白川先生に感謝いたします。



白川博士（前列左から4人目）を囲む関係者。庄山理事長（前列右から4人目）、本房事務局長（同右から3人目）、取締役理事（同2人目）も駆け付けた。